



にきむき
にきむき
純情産地
いわて

特集

純情産地いわてブランドプロミス

Vol.3

5月号では、ブランドプロミス制定までの背景について、つづく6月号では、ブランドプロミスとロゴマークに込められた意味や想いについてお伝えしました。そして、制定後の取り組みについてお伝えします。

加いただき、刷新されたロゴマークの除幕式やブランドプロミスの宣誓をおこないました。メディアをうけて、生産者・消費者・地域社会に向けて広く発信することで、本会職員はブランドプロミスを胸に、ロゴマークがこの先30年、40年と生産者、消費者に親しまれるよう努力し続けることを約束しました。

純情産地いわて ブランドプロミス宣誓式

本会が目指すべき理想像を「ブランドプロミス」として制定し、生産者・消費者・地域社会等へ周知するため、令和3年4月に純情産地いわてブランドプロミス宣誓式を開催しました。式では、達増岩手県知事やJA岩手県青年協議会ならびにJA岩手県女性協議会の会長、当時「純情産地いわてアンバサダー」をつとめていた「のん」さんにも参

ブランドプロミスに 基づく活動

「純情産地いわて」のブランドを「生産者」「消費者」「地域社会」への約束であると定義づけし、それぞれに対する目指すべき理想像に向け、「つなげる」「ひろげる」「根を張る」取り組みを進めています。今回は、その活動の一部を紹介します。

「つなげる」

いわての農業を継承し、価値を高め、未来へ繋げる

- ・「生産者手取り最大化」に向けたコスト低減の取り組みと水平展開
- ・園芸生産農家の規模拡大と中山間地域での生産拡大推進
- ・JAとの連携強化による米穀系統集荷の拡大
- ・畜産酪農事業における「県内一貫生産体系システム」の推進



「ひろげる」

生産者とともに、その想いを消費者の食卓へと広げる

- ・県産農畜産物の安定供給
- ・県内外および国外での販売促進活動
- ・イベントやキャンペーンでのPR



「根を張る」

地域社会の一員として、強く根を張る

- ・小中学校を対象にした畜産酪農出前授業の実施
- ・子供たちのスポーツ大会への特別協賛
- ・県内大学食堂への食材提供



私たちは、ひたむきに農業に取り組む生産者の想いを消費者までひろげ、岩手の農業および農畜産物の価値を高め、未来へとつなぎます。また、地域社会の一員として、強く根を張り、岩手の未来をまえむきに支え続けます。

「純情産地いわて」が目指す「理想像」その3つの柱。

りんどうや小菊に代表される県産花きの出荷シーズンを目前に控え、生育状況や需給動向、各種課題を共有し、販売強化と生産振興につなげることを目的に本会議を開催しました。ここ数年、高齢化による生産者の減少や気候変動により、販売金額は30億円を割り込んでいます。本会では、収穫後の鮮度保持技術の実証を重ね、需要期に出荷のピークを合わせることに取り組んでいます。本会の畠山副本部長は「令和8年度には、省力栽培態勢を確立する予定であり、作付面積の拡大を図っていく。技術導入による安定数量の確保を前提に、生産者が十分な手取りを維持できるようにしたい」と説明しました。



花き販売対策会議の様子

花き販売対策会議

令和7年6月5日(木)

「つなげる」

いわての農業を継承し、
価値を高め、
未来へ繋げる。



「ひろげる」

生産者とともに、
その想いを
消費者の食卓へと
広げる。



6月1日は牛乳の日

令和7年5月30日(金)

県内の酪農業と県産牛乳への理解・関心を高め、消費拡大を図るために、6月1日の「世界牛乳の日」に合わせて、県内JAと岩手県牛乳普及協会の共催で岩手県産牛乳のPR活動を行いました。今年は200mlの牛乳パックおよそ3,200個を用意し、県内の三つの大学と三つの駅で配布しました。岩手大学では午前中の講義が終わる頃に配り始め、お昼過ぎには1,300個すべての牛乳が学生たちの手渡されました。本会畜産酪農部の大津専任部長は、「学校給食を終えた後の世代は、急速に牛乳離れが進む傾向がある。改めて岩手県産牛乳の美味しさを実感してもらい、『いわての牛乳ファン』を増やすきっかけにしたい。」と話し牛乳の消費拡大に向けてPRしました。



岩手大学で牛乳を配布する畜産酪農部の大津専任部長

JA全農 WCBF 少年野球教室

令和7年6月14日(土)

「根を張る」

地域社会の一員として、
強く根を張る。



盛岡市のきたぎんボールパークで「一般財団法人世界少年野球推進財団(WCBF)主催の野球教室が開催されました。今年で33年目の開催となり、岩手県での開催は10年ぶり4回目、盛岡では初の開催となりました。元プロ野球選手の中畑清さん、緒方耕一さん(ともに巨人OB)、里崎智也さん(ロッテOB)、五十嵐亮太さん(ヤクルトOB)らが講師を務め、およそ160名の子供たちにピッチングやバッティングを指導しました。指導者や保護者を対象に、トレーニング方法や栄養管理の講習会も行われました。また、本会から講師陣へ「いわて牛」と「銀河のしずく」を贈呈しました。



講師へ「いわて牛」・「銀河のしずく」が贈呈されました

ピーマン尻腐果の発生低減に向けて



園芸部
生産振興戦略室
三田 重雄

夏秋野菜の「顔」となった県産ピーマンの評価
本県夏秋野菜を代表する品目がピーマンに置き換わって数年が経過しますが、市場からは品質を懸念する声が寄せられています。具体的には「尻腐果」、「赤果」、「トロケ果」と言われる果実障害が発生し県産ピーマンの評価に影響を及ぼしています。このうち、「尻腐果」への対応として岩手県農業研究センター(以下「岩手農研セ」)では試験研究課題に据え、全農岩手県本部(以下「県本部」)では現地実証圃を設置し栽培面から課題解決に取り組んできました。そこで、今回は県本部が取り組んだ実証結果についてお伝えします。

尻腐果の原因はカルシウム欠乏？ カリ過剰？
尻腐果はカルシウムの欠乏や水分不足、高温等が原因で発生する、ということはご存知のことと思います。そこで、岩手農研セでは適正かん水の観点から天気や日別に応じた株あたりのかん水指標を研究成果として公表しました。

一方、県本部では、カルシウムの欠乏とカリ過剰の関係に着目し、表1に沿って現地実証に取り組んできました。実態調査等からカリ過剰が主たる原因と考え、カリの吸収を抑えながらカルシウムを切れ目なく吸収させることが効果的との仮説をたて、土壌分析結果を踏まえて元肥、追肥ともリン酸、カリを無施肥とし、窒素とカルシウム(種類…硝酸石灰)のみの施肥で栽培できる!と農家を説得し2年間取り組んできました。実証にあたっては時期別の硝酸石灰の施用量とかん水量の各指標を作成し農家が不安なく取り組めるよう工夫しました。

■表1 3年間の活動

	R4年度	R5年度・R6年度
実態調査	1. 調査農家数 9戸(うち発生農家4戸) 2. 調査内容 ①栄養診断※ ②土壌分析 ③聞き取り	現地実証 1. 実証農家数 3戸 2. 調査内容 R4年度と同様

※栄養診断: NO_3^- 、 K^+ 、 Ca^{2+} をコンパクトイオンメーターで測定

■表2 尻腐果の発生低減に向けた対策

- かん水をしっかり行う → 岩農研セの研究成果等を参考
- 排水対策をしっかりと講じる → 1. と 2. を一体的に考える
- カリを過剰に蓄積させない
①土壌診断結果に基づく肥培管理に心がける
②カリ過剰圃場では減肥・無施肥を徹底する
③動物由来の堆(厩)肥の施用を見直す…等
- 硝酸石灰を施用する
(注)「硝酸石灰」を過信せずに1.~4.をセットで考える



写真 尻腐果の発生が低減し12t/10aを達成した実証圃(北上市)

ました。またカリを無施肥で栽培しても単収12t/10aを達成できる等生育が安定し、土壌中に蓄積したカリが大幅に減少することも確認できました(いずれもデータ省略)。

今回の実証結果を踏まえ尻腐果の発生低減対策を表2にまとめました。また、岩手農研セの研究成果はホームページ等から入手できます。なお、県本部の実証結果を詳しく知りたい場合はJA各担当または生産振興戦略室(担当三田)までお問合せ願います。

本県夏秋野菜の「顔」となったピーマンの品質対策をしっかりと行い、消費者からの信頼の安定・向上に努めたいものです。さあ、がんばりましょう!

各事業部における活動を紹介しします。今回は園芸部生産販売課の生産振興・販売対策です。

園芸部生産販売課の取り組み

園芸部生産販売課では、生産基盤の維持拡大に向け、園芸産地確立事業による生産振興、特にも近年大きな問題となっている夏場の収量確保をはかるべく、気候変動に起因する高温による生産物の品質低下対策等を講じてまいります。そして、園芸品目実証農場（ミニトマト・ピーマン）における実証成果を蓄積し将来的な「純情産地いわて」園芸品目の生産基盤とすべく、取り組みを強化します。

また、販売対策として直接販売の拡大に取り組みとともに、生産・流通コスト上昇にともなう適正価格販売への理解促進を目的に、消費宣伝活動を強化します。そして、輸送問題への対策として、レンタルパレットの活用、集約輸送の実施によりさらなる輸送効率化をすすめます。

1. 生産振興対策

- 気候変動に対応した暑熱対策資材導入や品質向上対策資材の助成
- 関係機関と連携した品質維持へ向けた対策強化
- バイオステイミミラント資材やバイオ炭の有効性検証と導入推進
- 「ついでOne展示圃場」での実証継続とコスト低減栽培への取り組み
- 「先進園芸実証農場」での単位収量の増加と生産者導入スキームの構築

2. 販売対策

- 重点市場・量販店への出荷拡大と直接販売取引の拡大
- 流通・包装資材の県下統一へ向けた取り組み強化
- 品質強化対策実施による園芸品目の販売先確保
- 物流の強化とレンタルパレットの利用拡大
- 生産現場での実情理解促進と消費を喚起する「消費者理解醸成活動」の強化



2025いわて純情むすめが決定いたしました。
令和7年7月から令和8年6月までの1年間、県内外の活動を通して、「純情産地いわて」の農畜産物を全国へPRします！

- ① 趣味・特技
- ② 好きな農畜産物
- ③ 純情むすめになつての意気込み

長沼 亜依



- ① 趣味：犬と遊ぶこと
特技：書道、さんさ踊り
- ② 「きゅうり」
岩手のきゅうりは、緑色が濃くてみずみずしく、パリッとした食感が特徴です。キンキンに冷やしたきゅうりをそのまま生で食べてみるとそのみずみずしさを感じることができるのでおすすめです。私の一押しは、きゅうりの浅漬けです！いつもあつという間に食べ過ぎてしまいます。
- ③ 県内外問わず、たくさんの地に足を運び、岩手の農畜産物の魅力を伝えていきたいです。その魅力を知るきっかけが私の言葉であったらとてもうれしいです。笑顔と明るさを忘れず、精一杯頑張ります！！1年間よろしくお願いします！

横沢 陽菜



- ① 趣味：ハンドメイドと読書
特技：書道
- ② 「お米」
岩手県の農畜産物はどれも魅力的ですが、その中でも毎日食べるお米が特に好きです。炊きたてのお米のつややかさは世界一だと思います。
- ③ いわて純情むすめとして活動させて頂けることを大変光栄に思います。私自身まだまだ知らない岩手の農畜産物の魅力を県内外・さらには世界に広げていきたいです。たくさんの方々の繋がりを大切に笑顔で1年間頑張っていきたいです。

内藤 晶子



- ① 趣味：映画鑑賞
特技：弓道
- ② 「レタス」
岩手県産のレタスを初めて食べた時、今までに食べたものとは違い、葉に厚みがあってとても食べ応えがあり、新鮮で美味しかったです。
- ③ 純情むすめに選ばれて大変嬉しく思います。移住者という視点を生かして、岩手県の農畜産物の魅力をたくさん発信していきたいです。生産者の想いもせて1人でも多くの方に岩手県の素晴らしさを知っていただけるよう努めて参ります。1年間どうぞよろしくお願いいたします

小山内 美月



- ① 趣味：映画、ドラマ鑑賞
特技：絵を描くこと
- ② 「牛乳と牛肉」
岩手県産牛乳は、まろやかでコクがあって好きです。ほぼ毎日飲んでいます！牛肉は、小岩井農場に行った際に食べたお肉に感動し、そこから大好きになりました。岩手県産のお肉はとても美味しいです！
- ③ いわて純情むすめに選んでいただき、とても嬉しく思います。活動していく中で、私自身も岩手のことをもっと知っていき、「岩手の農畜産物っていいな」と、県内外のたくさんの方に思っていたできるように、笑顔で精一杯頑張っていきたいです。1年間よろしくお願いします！



JAいわてグループ「いわて純情野菜トップセールス」



ういずOne展示圃場 ミニトマト定植の様子



先進園芸実証農場 ピーマン自動収穫ロボット



全農
ZEN-NOH

元気を出したい時に
おいしいものを食べる。

目の前の一食にすべてをかけて、
力をもらおうとする。

その力とは栄養だけじゃない。
前を向く力であり、生きる力だ。

この国は美味しいもので溢れてる。
さあ今日も、一食入魂。

一食入魂

全農所属 石川佳純

編集後記

2025いわて純情むすめが決定いたしました！一年間の活動をぜひ楽しみにしてください！
純情むすめの応援をよろしくお願いします。（嶋中）

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 純情ブランド推進室

JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8629 FAX019-626-8634

<https://www.junjo.jp>

